

都市と建築のブログ

魅力的な都市や
建築の紹介と
その3Dデジタルシティへの
挑戦

はじめに 福田知弘氏による「都市と建築のブログ」の好評連載の第54回。毎回、福田氏がユーモアを交えて紹介する都市や建築。今回は秋田の3Dデジタルシティ・モダリングにフォーラムエイトVRサポートグループのスタッフがチャレンジします。どうぞお楽しみください。

秋田へ



久しぶりのプロペラ機。木曽三川、北アルプス（乘鞍岳、槍ヶ岳）、妙高と野尻湖、新潟市などの姿が美しい（図1）。秋田空港へと高度を下げていく。ふと右を向けば雲間からは真っ白な鳥海山が現れて圧倒された。

4月上旬に訪問した秋田では、地方創生・国土強靭化FORUM8セミナーフェアで「建築・都市分野のXR活用による地方創生・国土強靭化」についてお話しさせていただいた。水木しげるロード、境港市民交流センター（仮称）、丹後国分寺五重塔ARなど、いずれも秋田と同じく日本海に面したまちでの取組み。秋田県内4市の市長さんがお越しになられた。

かつては秋田藩佐竹氏の居城だった千秋公園を散歩していると、秋田犬にさっそく出会う。桜がようやく満開であ



3

4

1

2

3

4

1 プロペラ機より北アルプス
2 千秋公園の桜
3 象潟海水浴場
4 象潟

Vol.54

秋田南半分：内なる豊かさ

大阪大学大学院准教授 福田 知弘

プロフィール 1971年兵庫県古川市生まれ。大阪大学准教授、博士（工学）。環境設計情報学が専門。CAADRIA (Computer Aided Architectural Design Research In Asia) 国際学会 フェロー、日本建築学会 情報システム技術委員会幹事、NPO法人もうひとつの旅クラブ 理事など、著書に、都市と建築のブログ 総覧（単著）、VRプレゼンテーションと新しい街づくり（共著）、夢のVR世纪（監修）など。ふくだぶろーぐは、<http://fukudablog.hatenablog.com/>



りながら、あられのような雪が舞う日であった（図2）。4月の雪はさすがに珍しいよう。

地形図を眺めると、秋田県の県境はほぼ山で囲まれており、周囲の県から閉ざされた感じである。海沿いですら青森県とは白神山地、山形県とは鳥海山がそれぞれ日本海まで迫る。県内も山がちであり、平地は北の米代川と南の雄物川、子吉川に沿った地域と横手盆地、そして八郎潟の辺りである。

これから、秋田県内をざっくり一周してみよう。今回は、南半分を中心のご紹介。

きた大地震により地盤が2mほど隆起し、潟は一夜にして陸地へと姿を変えた九十九島が陸に取り残された格好となつた。

象潟は、歌枕の地でもある。松尾芭蕉は「おくのほそ道」最北の地として訪ねており、「象潟や 雨に西施が ねぶの花」と詠んだ。

古刹「蛭満寺」を起点として、歩きながら島巡りしていると、羽越本線を列車が通り過ぎた（図5）。思えば、30年ほど前に寝台特急日本海に乗りこんでこの辺りを通り過ぎていた。

と皆瀬川の交わるところにあり、商人の町として栄えた。北都銀行の前身のひとつ、増田銀行発祥の地である。幕末から変わらない町割りや道路や敷地は、重要伝統的建造物群保存地区（重伝建地区）に指定されている。明治・大正・昭和の建物の多くは、梢（さや）となる上屋で覆った内蔵（うちぐら）を持っている（図7）。

中七町通りを歩いて佐藤又六家（佐藤家住宅）へ（図8）。大きな切妻屋根の商家の扉を開けると、扉がもう一枚現れた。ここからは内蔵であり、通りから蔵の中にすぐに入るという増田の中でも面白い構造。

敷地は、間口8.7mに対して、奥行はなんと111mもあり極端に細長い。1階は、通り土間に沿って、店の間、仏間と納戸、オエ、居間、台所、便所と続く。2階は、通りに近い店の間の上部などを座敷としている。土蔵の扉からはバルコニーに出て、通りを眺めることができる（図9）。

土蔵は耐火性に優れている。この敷地の南端に水路が流れおり、町に火災が発生した時に、この建物自体と水路で延焼を食い止めようとしたことから、建物全体が蔵の構造になったそうだ。

次に、旧石田理吉家へ。こちらは中七町通りから前庭に入り、脇から建物へ。木造3階建てで、外観を眺めると3階部分が大きい（図10）。庭から見え

蔵を上屋ですっぽり覆う

にかほの九十九島

秋田市から南下して、にかほ市へ。道中は、はげしい吹雪と猛烈な風に見舞われたが、にかほに着くと不思議と晴れた。

日本海に挨拶してから、象潟（きさかた）へ（図3）。鳥海山を背景に、木々の生えた島々が田んぼの中に点在する不思議な景色に出会える。象潟は九十九島とも呼ばれ、国の天然記念物である（図4）。

ここはかつて、鳥海山が崩れて大量の岩石が流れくだり海を埋め立てた結果、多数の小島が入り江に浮かぶ風景ができあがった。江戸時代には、「東の松島、西の象潟」と並び称されていたそうである。しかしながら、1804年に起



6 由利本荘でランチ